

読書感想文  
コンクール  
中学校の部  
最優秀賞

## 二人の友情

及川 未来 さん  
(歌津中学校2年 名足)



キヤスは、父さんが建てたフェンスの節穴ごしに、隣家をのぞいていたのを、その家に住む黒人のジェミーに見つかってしまいました。「走るのが好き。」「あたしのほうが速い。」と、言い争うジェミーとキヤスは本当に似た者どうしに見えます。その翌朝、学校のトラックで走りお互いの強さを認め合いました。この時、どちらが速く走れるか競い合おうと約束します。これがきっかけになって、二人の間に少しずつ心が通い始め、やがて無二の親友になっていきます。父さんが黒人嫌いなのを知っているキヤスは、父さんには内緒でジェミーと走り続けます。ジェミーも、母さんが白人の人種差別主義者、つまり黒人が引越しているのを知って高いフェンスを建てた隣家を嫌っている事を知っていて、母さんに内緒で走り続けます。二人が友達だと分かってくれた人はジェミーのおばあちゃんとUSAストアのミスター・Gだけです。

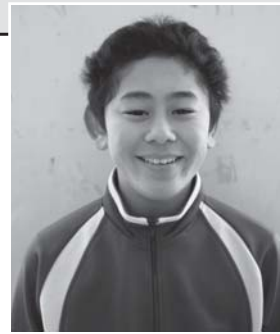
ここで私は、「人種差別」について考えさせられました。白人と黒人は常に支配する側とされる側、主人と奴隷の関係であって、決して対等にはならないとする考え方。今も根強いこの差別に、私は戸惑いに取組んできました。中学でも高校でも、友達が疲れて休むような日でも練習してきました。イチロー選手の好きな言葉が、「継続は力なり」です。集中して努力をするとは簡単でも、その努力を続けることはとても難しいことだと思えます。きつとイチロー選手だって休みたくなつたこととはあると思えます。それでも努力をやめなかつたからこそ夢をかなえることができたのではないのでしょうか。夢に向かって努力し続けられれば、その努力は必ず報われる。逆に言えば、努力しなければ報われないということをイチロー選手は教えてくれているような気がします。

この本を読んでぼくが最も驚いたこと、それはイチロー選手は夢がかなつた今でも自分を超えようとしていることでした。ぼくはイチロー選手はもうプロ野球選手だから、ヒットもらくらく打っているだろうと思っていました。しかし、思い込みはくつがえされました。キャンプでは朝から晩まで猛練習をし、試合に

も休まず出場していました。その結果、首位打者をとれるようになったのです。日本を代表するようなプロ野球選手になった後には、イチロー選手は世界の舞台、メジャーリーグに挑戦しました。今でも毎日努力を続けているのだと思えます。夢はかなつたらそこで終わりではありませんでした。ぼくはイチロー選手の姿から、夢をかなえることはゴールではなく新たなスタートなのだと分かりました。夢はかなえるために努力して努力して、たとえ失敗しても失敗から学んで成功を目指すものだと思えます。そして、また次に挑むことを積み重ねていくことこそが夢の本当の姿なのだと思ようになりました。ぼくの夢は、料理人になることです。料理を作るのも食べるのも好きだからです。夢をかなえるために、いろいろな料理を作ってみたり今できる勉強をしたりしなくてはならないです。でも、すぐにあきらめず、ぼくに最も足りないものは、夢への努力を継続させる

## 夢をつかむ力

西條 颯 さん  
(戸倉小学校6年 荒町)



「夢は見るものではなく、自分の力でつかむものだ。」これは、プロ野球界の大スター、イチロー選手の言葉です。あまり野球が好きではないぼくでも、イチロー選手の名前や活躍は何度も耳にしたことがあります。学校の授業でも、イチロー選手が小学生のときに書いた作文を読んだことがあります。プロ野球の選手になって活躍することを小さい頃から夢に見ていたイチロー選手。どうやって夢をかなえることができたのか興味を持ってこの本を読みました。

イチロー選手は、日本のプロ野球で初めて一シーズン二百本もヒットを打つという大記録を達成した選手です。しかも、一年だけでなく、九年間も連続して二百本安打を達成しているのです。イチロー選手が子供の頃からの夢であるプロ野球選手になることができたのには、大きな理由がありました。それは、努力を続けたことです。イチロー選手は小学生の頃から毎日欠かさずに練習

い覚えながら読み進めていきました。社会科で習う程度で、実際に身近にある問題ではありませんが、互いを軽べつし、憎み、認め合おうとしない人間の感情は、おそろしいと思えました。自分が考えていた以上に、アメリカという国は「人種差別」がはつきりしている国だとは思っていませんでした。

ある日、そうして走つてきた二人の関係がキヤスのお父さんやジェミーのお母さんにバレてしまいます。隣に住んでいて、いつでも会える距離なのに、親に反対され、会いたいのには会えない二人はとてかわいそうでした。でも、ある出来事をきっかけに、また二人で走ることができるようになりました。それは、キヤスの妹のミッシーという赤ちゃんが熱中症にかかってしまい、それを黒人のジェミーのお母さんに助けてもらったという事があったからです。二人とも二人で走ることが大好きなので、また一緒に走れるようになって私も良かったと思えました。二人はマラソン大会で優勝する、という夢を持っていました。特に最後のレースは、多くの意味を持っていると思えました。二人の少女のゴールイン。そして彼女たちがも

る気持ちだと気づきました。そして、ぼくの祖母もイチロー選手と同じようなことをよく言っていることを思い出しました。それは、「あきらめないで続けることに意義があるんだよ。夢がかなうまで、どんなことがあっても努力しなさい。」という言葉です。勉強だって料理だって、あきらめて努力をやめればそこから前に進むことはありません。ぼくは努力を継続させ、夢をつかみ取ります。食べてくれた人が笑顔になるような料理人と努力を続けられる料理人を目指します。